

(様式2)

令和 5 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592400087		
法人名	株式会社ユーワ		
事業所名	グループホーム悠々の杜		
所在地	南魚沼市坂戸6-3		
自己評価作成日	令和5年5月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年8月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の敷地内に桜の木が植えてあり春には利用者はもちろん地域の方々にも楽しんでいただき、目の前には坂戸山がそびえ立ち、魚野川の清流を眺め、季節やその日の天気の違いを感じることができます。

認知症状に合わせた個別ケアを大切に、一人ひとりの思いに寄り添い理解し対応に努めています。

集団生活の中でプライベートな時間や好み、家族や友人とのつながりを大切にしています。

新型コロナウイルスの予防で地域のサロンもやめてしまい、運営推進会議も書面の開催となり地域交流は減少傾向ですが、地区の春の共同作業には参加したり、同じ地区にある知的障害者施設や特別養護老人ホームと坂戸地域ケア会議に参加し、住みよい地域作りに参加している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム悠々の杜」は、2008年に既存の建物を活用し開設され、2～3階には介護付き有料老人ホームを併設する事業所である。事業所からは魚野川の流を見ながら、坂戸山を仰ぎ、春には桜、夏は溪流、秋は紅葉、そして冬は雪景色を楽しめる、のんびり、ゆったりとした時間が流れる地域に立地している。

利用者への基本姿勢として、自立に向けて今出来る力を決して否定せず、利用者本位に利用者の出来ることを大切にしており、職員は共通認識のもと日々の業務の中で実践に努めている。

コロナ禍では多くの福祉施設・事業所で、家族及び地域との分断に苦慮している状況であるが、「悠々の杜」では、少人数で人混みの少ない時間帯を選び、利用者の希望に沿ってランチや外出を絶えることなく実施している点特徴的である。さらに、家族等の大切な人と直接会えない時期であるからこそ家族への情報発信が重要であると認識し、毎月の広報紙の他に、居室担当職員による個別通信の送付、「グループLINE」を活用してリアルタイムで事業所の活動の様子を伝える取り組みを行った。

また、さらに特筆すべき点は入浴支援への取り組みであり、利用者一人当たり週平均5回の入浴を実施している。入浴嫌いな利用者には職員や時間を変えて対応し、それでも拒否する場合は無理強いせず、最低週2回の入浴で清潔を保てるよう努めている。

時代の流れと社会の現状に合わせてグループホームの形態が変わっていく中で、「悠々の杜」の運営と工夫は「本来のグループホームとは何か」を考えさせられる。そうした意味でも今後の進展が益々期待される事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	何を大切に利用者へ向き合うのかを日々の申し送りや定例会で理念を掘り下げて職員全体で話し合う機会を作るようにしている。職員採用時は理念について説明し理解して日々のケアにつなげられるように取り組んでいる。	それまでの理念を、平成29年に現在の管理者の異動を機に見直し、全職員で新たに構想した4つの理念を作成した。個別ケアを重視した基本方針とし、毎年4月の家族向け便りに理念を掲載すると共に、ケース検討を通じて理念の共有と振り返りを行い、職員に意識づけがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、百八灯の参加など坂戸地区の事業活動に参加している。作品展には作品を出展していただいたり、地域の方々から介護の相談も受けることがある。地区の民生委員や坂戸筋トレ友の会の方にも運営推進委員をお願いし交流の輪が広がっている。施設の運営について理解してもらう機会が増えている。	コロナ禍前は、地域住民が運営する「ふれあいサロン」に参加したり、事業所主催の行事に地域住民も積極的に参加する等の交流があった。コロナ禍によりほとんどの交流は中止することになるが、今年8月には事業所の夏祭りが再開され、また地域の祭り際には子供神輿の休憩所として事業所を活用してもらう等、徐々に地域住民との交流を再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和5年度も継続して「より生き生きと健やかに暮らせる地域」を目指し、包括支援センター職員、坂戸地域区民と話し合をしながら施設の役割について検討中である。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は新型コロナウイルスの影響で開催できず、書面にて事業所報告となっていたが、令和5年度第1回は(6/16)開催し報告や意見を聞く事ができた。	利用者、家族、区長、民生委員、ふれあいサロン役員、行政、法人役員、職員等で組織されている。コロナ禍により書面開催の形式をとってきたが、今年6月の会議から従来通りの対面開催としている。書面開始時にも、委員の意見を引き出すように返信書面と封筒を同封する等工夫をしてきた。委員からは、水道工事による水質汚染事案を例にして飲料水備蓄の提案が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議や事故報告等の提出時、事業所の取り組みを介護保険系の担当者へ報告・相談し指導していただいている。	管理者は日頃から行政との顔の見える関係性作りを心掛けている。支援困難事案は地域包括支援センターに相談している。以前は生活保護受給者の受け入れも行っていただけもあり、行政の福祉担当者との連携も積極的に図ってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアの研修に参加し定期的に委員会と研修は実施している。年度末に全職員へアンケートを配布し統計し定例会議で話し合いをしている。施錠を含め身体拘束をしないケアを行い理解し実施している。	マニュアルが整備され、「身体拘束廃止委員会」が組織されている。概ね3カ月毎にDVD研修を含め研修を実施し、事業所内で身体拘束をしないケアを目指し日々の業務に取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員へ声を掛けるようにしている。皮下出血等発見時は記録に残しながら全体で把握し分析するようにしている。年4回の委員会、年2回の勉強会を開催している。7月に外部研修に参加しており日頃から防止に努めている。	マニュアルが整備され、「虐待防止委員会」が組織されている。虐待発見チェックリストを活用して、年1回全職員で何が虐待に当たるのかを繰り返し学習している。職員のストレスマネジメントとして、ストレスをため込まないよう希望休暇やリフレッシュ休暇等の取得・調整について積極的に対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員となると理解は不十分の為、今後制度について理解できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。事業所のケアに関する取り組み、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実態については詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からアンケートに協力してもらい、改善し運営に反映させている。来所時、できるだけ担当職員が対応させていただき、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。又、施設運営会議の場でも意見を出して頂いている。	外部評価を実施しない年には、独自に家族向けアンケートを実施し、家族の声を聞くように努めている。毎月の事業所広報紙の他に居室担当により個人通信が作成され、希望があれば身元引受人以外の利用者に関わりを持つ関係者にも配布されている。利用者からはコロナ禍でも外出したいとの声があり、店の混み具合を見極めながら工夫してランチに出かけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会や毎日のミーティングの際意見や提案を聞くようにしている。事業所内で解決ができない課題は管理者が会社の代表に要望意見を報告し改善に努めている。法人役員に何かあれば相談できる環境がある。	パート職員が多い中で、統一事項の徹底や職員の意見、要望の把握に努めている。管理者は会議だけではなく直接言い合える関係作りを心掛けており、職員の提案で早番・遅番・夜勤の業務内容の見直しが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議でグループホームの実績や労働条件等報告して職場環境整備をしている。勤務シフトの見直しやスケジュールの調整等相談には随時応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進しパート職員にもチームの一員として研修や会議に参加してもらっている。外部研修参加後は報告書、資料の回覧をし全体が確認している。内部研修後も報告書を提出している。ケア統一できる様に変更時は送りと業務日誌等で周知をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会がありその中で相互訪問研修をしたり、施設運営について情報交換等行っていたがコロナ感染予防のため、電話やメールで情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問に伺い担当職員や市の担当者などさまざまな立場の方から情報を得るようにし、入所後もご利用者が安心して生活できるように努めている。また、一人ひとりの置かれていた状況や不安を把握し柔軟な対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集と御家族との面談を行い困っていること、不安に思っていることなど要望をお聞きし、安心して施設入所してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況や家庭環境などにより、早急に対応しなければならない場合もある為、緊急時は空き室があれば柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に教えてもらうことも多い。得意な分野の力を発揮できる場面が多く持てるようにセッティングや工夫、声かけに配慮している。常に感謝の気持ちを伝え、和やかな生活ができるように声かけをしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ができる事、事業所ができる事等をお互い確認しながら計画を立てている。今まで通信中心だったがコロナの影響もあり電話連絡やテレビ電話、メール、手紙で報告を行い、家族と密接な信頼関係が構築できるよう努めている。又、連絡をもらい相談を受ける事も対応している。	以前は利用者の家族との外出や外泊もあったが、コロナ禍によりそれまでの家族による支援や面会に制限が設けていた。現在は、面会については短時間で距離を保った形で再開されている。コロナ禍の中でこれまで以上に家族向けの情報発信の必要があると認識し、「グループLINE」を活用して日々の事業所の様子をリアルタイムで発信しながら家族との関係性作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの対応で以前より少なくなっているが昔から利用している美容院や衣料店の利用をしてもらっている。また、友人が経営しているお店からお弁当をとったりと馴染みの人・場所が途切れないように支援している。	入居時に「センター方式」のアセスメントシートを活用して、家族から情報を得るようにしている。事業所に友人・知人から頻りに電話連絡があり取次を行ったり、個人で携帯電話を持つ利用者もいる。利用者の友人が営む仕出屋さんから出前を取ったり、住んでいた地域へドライブする「ふるさと巡り」等の企画も積極的に行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士がよい関係を築けるように職員が架け橋となったり、利用者同士の関りを支援している。利用者同士が居室の行き来ができるように場面作りにも配慮している。ソファを置き気軽にお喋りできる環境があり利用されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への住み替えが必要になったときは、フェイスシートなども含めご本人の状況や情報を細かく伝えるように努めている。住み替え後もご家族からの手紙などで、様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望、意向の把握に努めているが、どのように暮らしたいのか、誰に会いたいのか、何をしたいのか、理解するために今後も、ご家族や関係者から情報を得ながら検討していきたい。センター方式C-1-2を活用し本人の思いを聞きケアプランに反映させている。	居室担当の職員を中心にして「センター方式」の「C-1-2シート」を年1回記入し更新を行い、利用者の現在の意向や思いを把握するよう努めている。比較的介護度の軽度な利用者が多いことから、日々の関わりの中で会話を通して利用者一人ひとりの意向の把握に取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅訪問をしたり、センター方式を活用しご本人・家族・関係者などからこれまでの生活歴の把握に努めている。	入居前の担当ケアマネジャーから情報を得ると共に、「センター方式」の「暮らしの情報シート」を活用し入居前に家族からもシートに記入してもらっている。入居後に知り得た情報については、シートへの追記を行い職員間の情報共有に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、利用者一人ひとりの身体・精神状態・生活リズムを把握し、状態の変化があった場合に早急な対応を心がけケア内容や介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は計画作成者が担当職員とともにアセスメントを行い3ヶ月ごとにモニタリングを実施している。ご利用者・家族の率直な言葉が盛り込めるように家族にも日程調整をお願いし参加していただいている。	居室担当職員と計画作成者が共同でアセスメントを行い、利用者や家族の意向や希望をもとに、他の職員の意見も取り入れて介護計画を作成している。家族による受診同行の機会に利用者や家族に介護計画を説明し話し合っている。遠方の家族には電話等で丁寧に対応している。モニタリングは3カ月毎に実施し、短期目標は6カ月毎、長期目標は1年毎に更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は気づきや工夫など実践できたことの結果として残し職員間で情報を共有している。記録を基に介護計画の実施と評価を行っている。また、出勤時は必ず業務日誌に目を通し特記、統一内容の把握を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合もあり受診や買物の代行を行っている。ドライブ・お茶会・出前の計画をご利用者と職員で立てて実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブ外出、季節を楽しみながら外出支援できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医が継続できるよう連携し、往診も行ってもらい支援している。家族が遠方の場合依頼があれば受診の代行もしている。内科と歯科は協力医療機関があるため連携している。	基本的にはそれまでのかかりつけ医を継続できるが、近隣の医療機関に変更した利用者もいる。ほとんどの利用者の受診は職員が同行しており、家族が同行する場合は、医療連携のためのメモを持参し、かかりつけ医との連携が図れるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤していない為、在宅医療機関の看護師や入院先の看護師とその都度、状態を報告し連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供し、入院中は定期的に病院を訪問し状況を確認している。退院時は、医療機関より情報を得て、状態にあわせた対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化への対応として入所時に本人、家族の意向を伺い、事業所の取り組みや家族の思いを確認するようにしている。併設施設の特浴槽利用等も必要時には、協力体制を整えている。今後は、地域の関係者とチーム支援を検討していきたい。	重度化対応や看取りについては特別な書面の交付は行っていないが、その事案毎に医療的依存度の有無を考慮し、実施の判断については家族と協議を重ねている。家族の意向や利用者本人の住み替えへの負担を考慮し、直近2年間で1名の看取りを行い、それ以前に2名の看取りを行った実績がある。	看取りや重度化への対応については、今後も事案が発生することが予測される。夜勤者1名体制の中で事業所として出来ること・出来ないことを明確にし、看取り実施のプロセスや重度化への対応についての指針等を作成し、職員や地域の関係者との意識共有を図りながら、医療連携体制整備に向けた更なる取り組みに期待する。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時用のマニュアルに沿って対応できるように定期的に訓練し、実際に起きたときに冷静に確実な情報を伝えることに努めている。7/1に消防署よりAEDの研修があり訓練を受けた。	緊急対応時のフローチャートを作成すると共に、定期的に急変場面のマニュアルに沿った場面研修を実施し、対応力の向上を図っている。コロナ禍ではあるが、7月に消防署によるAED研修も受講し、復命研修を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回併設している有料老人ホームと合同の避難訓練、消火器や非常通報装置の取り扱いについて実施している。地震や水害についてもマニュアルを作成し、施設内で月1回は訓練をおこなっている。	火災、地震、水害への対応マニュアルを整備すると共に年2回避難訓練を実施している。行政のハザードマップでは水害地域に指定されており、以前、隣接する河川の水位が上がり、同一建物の3階に垂直避難した経験がある。この経験に基づき備えを行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴・居室内など個人のプライバシーを守り、記録は事務所で記入個人情報の取り扱いに注意している。一人ひとりに合わせた言葉掛けに取り組んでいる。	常勤職員の全員が認知症介護実践者研修を受講しており、認知症介護への基本姿勢を学んでいる。そうした中でも管理者は、利用者への言葉掛けや態度について日々の業務の中や会議を通じて、利用者一人ひとりの生活のパターンの違いを大切にすることを職員に繰り返し説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別にご利用者に関わり、ご利用者の思いをお聞きしている。遠慮されていないか等、ご利用者の表情や言動に注意して傾聴し、選択できる内容等自己決定しやすいような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調を考慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアでそれぞれ髪を整えたり、髭剃りができるように支援している。外出する際は本人の気に入った服やスカーフ、帽子等を選んでもらい外出の支援をしている。お化粧の習慣のある方はクリームや眉を描いて頂いたり希望があれば購入している。日曜に整容の日を設け爪切りの支援やカット、毛染めの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食盛り付けは職員と一緒に準備している。下膳やテーブル拭きはご利用者にお願ひできる事をしてもらっている。希望もあり月2回はお寿司を食べたり誕生会では希望の物を聞き提供している。行事などで季節の物を味わって貰う機会が多い。苦手な物を聞き代用品を提供している。	チルド食を利用しているが、近隣からの野菜等の差し入れもあり、品数の多い工夫した食事を提供している。利用者は個人用の茶碗や湯飲みを使用しており、盛り付けや食器洗いに自分の役割として参加される利用者もいる。山菜料理やチマキ作り等の季節食や、少人数でのランチ外出等を実施して食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせた飲料や希望の物を提供している。飲みやすいカップ等の工夫をしている。食事量の減少などが見られる場合には申し送りや記録に残している。状態により医師に報告・相談している。こまめな水分補給を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に嚥下体操、毎食後口腔ケアの声かけをし確認をしている。就寝前には、義歯の洗浄を行っている。義歯の不具合時は歯科の受診をしている。本人の状態に合わせ訪問歯科も検討している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方の状態に合わせ声掛けし誘導することで失敗することなくトイレで排泄ができるように支援している。現在は自立されている方が多い。	利用者の多くは排泄はほぼ自立しているが、本人の希望や状態により夜のみ紙パンツを使用する方もいる。服薬内容もふまえて必要な利用者には排泄チェックを実施し、排泄パターンを把握した上で支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便確認・記録し、便秘の予防として繊維質の多い食品、乳製品、水分が多く取れるよう好きな飲料で摂取してもらっている。また散歩や運動を取り入れて、自然排便を促すように努力している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や湯加減は希望や状態に合わせて柔軟に対応している。楽しめるよう、入浴剤・柚子湯を使用する事もある。又、お風呂嫌いな方には工夫した声掛けや時間をずらし再度声掛けしている。自立入浴できる方には見守り、声掛けにそご自分のペースで入浴してもらっている。	本人の希望を聞きながら週2回～7回の入浴回数になるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、対応する職員を変えたり時間をずらして対応している。それでも入浴を拒否される場合は無理強いやせず更衣だけしてもらうなど柔軟に対応している。季節に応じた変わり湯等の工夫もしている。今後は近隣の温泉への日帰り旅行の再開を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり睡眠が取れるように湯たんぽや低反発のクッションを導入して安楽で気持ちよく休息が取れるようにしている。不眠傾向のご利用者には足浴を行ったり、温かいお茶を準備したり寄り添うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルし職員が確認できるようにしている。薬の変更時は本人の状態を把握し医療機関と連携が図れるようにしている。薬剤師からの講習会をもうけて、薬の一人ひとりの注意事項や視点を理解することができた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう掃除・洗濯・縫い物・編み物・手工芸、パズル等、職員と一緒に取り組み支援している。飲酒が楽しみなご利用者はノンアルコールビールで晩酌をしていた。行事でノンアルコールの提供もある。又ドライブや散歩、季節にあった行事も多く取り入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の意向を踏まえたドライブや外出、近隣の散歩を行っている。また花見や菊祭り、雛飾り見学など季節に応じた外出支援も心がけている。新型コロナウイルスの影響で外出は控えていたが5類変更後は以前のように外出支援が増えている。	コロナ禍でも、少人数で混み合わないよう時間帯を見ながら、雛人形、桜、鯉のぼり、稲刈り等の見学やブルーベリー狩り、ランチ等、外出を楽しむ支援を行っている。また、事業所敷地内のベンチで外気浴をしながら坂戸山を眺めたり、桜の見える土手での散歩など、戸外へ出ることを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して少額の現金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも外出時は自分で払ってもらうように財布を渡し工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物などが届いた時は、お礼の手紙を書いてもらっている。電話は事務所にて個別でプライバシーに配慮しながら対応している。葉書や切手の購入希望の際は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整をし、快適な温度で過ごして頂いている。本人の好みを聞きながらカーテンなどで光の調整を行っている。ご家族が遮光カーテンを持ってきて設置されている方もいる。眩しくない様にカーテン工夫したりしている。	事業所は、既存の建物をグループホーム利用に転用したものであり、廊下がL字型になっていたり、トイレ位置が遠かったりという状況もあるが、それが逆に少人数になれる空間や生活リハビリの場面を作り出している。リビングの壁には華美にならない程度に利用者のクラフト作品が掲示され、目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが限られているが気の合ったご利用者同士で過ごせるよう、玄関ホールやレクリームにくつろげるスペースを作っている。ソファを置きゆっくりお話ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は家族と相談して、馴染みの食器や写真、使いなれた家具、枕等を持参頂き、利用者の居心地よさに配慮している。	居室には、テレビ、家族の写真、使い慣れた家具、位牌等が持ち込まれ、その人らしい生活空間となっている。仲の良い利用者同士が居室で会話を楽しむこともあり、そうした時にはさりげなく湯茶の提供を行い、居室で居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示やフロアでの椅子の種類、居室内のダンスやベッドの位置など個別で工夫し安全に安心して生活できるように本人と相談しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				